

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮西小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 主語と述語の関係や、除法、減法の計算など基礎的、基本的な知識・技能の定着が乏しい。 <指導上の課題> 個人差が大きい。反復・習熟のための時間の確保が難しい。	⇒ 業前の時間の活動「まなぶくんタイム」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。その際、「ドリルパーク」等ICTによるデータを効果的に活用する。【毎週の業前の時間】 ⇒ それぞれの内容を学習する授業で丁寧に取り上げるのはもちろんのこと、関連する単元において既習事項と結び付けながら指導する。【該当する内容の授業】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語科、算数科どちらにおいても、必要な情報を読み取り、活用する力に課題が見られる。 <指導上の課題> 個人差が大きい。様々な情報を結び付け適切な情報をとらえる機会が十分に確保できていない。	⇒ 文章だけでなく、資料や表、グラフなど様々な情報から適切な情報をとらえることができるようにする。そのために、教師が教科横断的な視点を持ち、国語科や算数科以外の教科でも、情報の見方を示したり、児童同士で交流する時間を確保したりすることで、様々な情報を適切にとらえたり見方を増やしたりできるようにする。【該当する内容の授業】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語科では、漢字の書き取りに対して正答率が低く、無回答率も高くなっている。日頃の生活からよく使う言葉ではあるが、複数の読み方と漢字が結びつかないかと考えられる。長文を読むことや要約することにも抵抗感がみられる。語彙力不足であり、簡潔に書き表すことができる力が課題といえる。 算数科では、目盛りを読み取ることに課題がみられた。授業の中では取り上げているものの、実生活ではデジタル表示が増え、時計をはじめ目盛りを読む経験が少なくなっていることも要因と考えられる。理科や家庭科では、はかりを用いることもあるため、教科横断的な実践がより重要であるといえる。
思考・判断・表現	国語科、算数科どちらにおいても、複数の情報を結び付けたり、複数の情報から必要なものを整理したりする問題の正答率が低く、本校の課題である。「知識・技能」でも記述したが、長文を読むことに抵抗感がみられることも要因であると考えられる。また、算数科においては、立式をし、計算はできるものの、「なぜその式になるのか」「なぜその計算をするのか」の説明をすることが難しいようだ。日頃の授業でも実践していることだが、定着が乏しく、応用できていないといえる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	業前の時間の活動「まなぶくんタイム」のみならず、さまざまなタイミングで、ドリルパークをはじめ、百マス計算やプリントなどで基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。また、授業の中でも既習の事項を確認したり、単元の終わりに復習の時間を設けることをした。一方で、「まなぶくんタイム」を計画的に、かつ、児童の実態に合わせた活用をすることが困難であった。	変更なし
思考・判断・表現	B	視点を明確にして文章や資料の読み取りに取り組ませることができた。また、国語や算数だけでなく、社会や理科などでも資料を活用したり、既出の資料と関連付けたりする活動を取り入れることができた。子ども同士での交流も活発に取り入れた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)